

尺骨神経, 内側前腕皮神経, 内側上腕皮神経

尺骨神経 (N. ulnaris)

解剖
 上腕の後尺側で皮膚と上腕筋膜のみに被われて下行する。肘頭の尺側を通り、尺側手根屈筋の起始部を貫いて前腕の前面に出、この筋に被われて尺骨動脈に伴って下り、手掌、手背の二枝に分れる。筋枝は尺側手根屈筋、深指屈筋（尺側半分）、内側の手筋群などを与え、皮枝を手掌と手背の皮膚の尺側半へ送る。

機能
 尺側手根屈筋：手掌の屈曲及び尺側屈曲をする。
 深指屈筋（通常第4, 5指）：指末節の屈曲につづき、他の節の屈曲をする。
 母指内転筋：母指を内側又は手掌側へ内転する。母指屈曲の補助。
 短母指屈筋：浅頭は正中神経、深頭が尺骨神経により支配され、母指の基節の屈曲を行なう。
 骨間筋：掌側部は中指に対し示指、環指、小指などを内転させる。背側部は示指、環指、小指などを開く。両部は中手指関節を屈曲し、同時に指関節を伸展する。
 小指筋：小指外転筋、短小指筋、小指対立筋など、それぞれの作用を行なう。

臨床
 上腕骨内側から肘頭部の圧迫で侵され易く（深麻酔、熟睡、肘骨折後の癥痕）、また深手掌枝は小指球のくりかえし圧迫で麻痺する（針金切り麻痺Cable splicer's palsy）。症候は手の尺側の知覚脱失、母指球、骨間筋、小指球の筋萎縮、脱力、特に第4, 5指の屈筋が侵され易い。診断として、固い紙を母指と示指の間で強く引くと、患側で母指末節が屈曲する。これはFroment 徴候という。

内側上腕皮神経 (N. cutaneus brachii medialis)
内側前腕皮神経 (N. cutaneus antebrachii med.)
 これは上腕又は前腕の内側の皮膚の知覚を司どる。

